まどい

第194号　熱海同級会特集

秋田県羽後町仙道中学校昭和３０年卒

1955（昭和30年）創刊　2009年5月26日発行

186-0003 東京都国立市富士見台 3-6-404
tel/fax 042-574-8694 ・直090-2332-4408

まどい編集室

http://www32.ocn.ne.jp/~madoi/
mal: madoi30s@ce.mbn.or.jp

土田栄治 新作を披露

昨年心臓の大手術をしたと言う土田栄治さん。古希の会では奥さんに見守られながらの参加でした。

以前栄治さんの「竹細工」を見せて貰いその精巧な作りとセンスにはみなさんの大きな賞賛を受けました。ご近所でも作品に人気があり展覧会にでも出せばと言われ「オレそんなタマじゃ無いよ」と言いながらいくつか分けてやったと言うことです。

「今度こんなものを始めたんだ」と見せてくれたのは石に刻んだ花。

竹細工の方はどうしたと聞くと「あれは竹を裂いたり削ったりするんだよ、怪我しちゃってな、女房に怒られちゃってよ止めたんだよ」竹細工にしても誰に教わったわけでもなくおのれの感性だけで作り上げたものだった。それだけに類するものもなく独創的な世界で一つというしろもの。栄治さんにこのような才能があったなどと同級生の誰が想像出来たでしょうか。

今度は「石工」さんです。「そこら辺の石を見つけて来るんだよ」特別な道具を使うわけでもなく「キリでやってるんだ！」左甚五郎ではないが栄治さんのコツコツと掘り続ける姿が見えるようです。浮き彫りにして絵の具を塗る。ただの石がこんなにも生き返るのかと思わされます。

栄治さんは絵を描くことも好きだと聞いていましたが、竹細工では驚かされ、今度は彫り物となって本性を現してきました。

「仏像はやらないの？」と聞く、やっぱりあれは難しいとのこと。それでもいずれはやってみたいと言っていました。

「大丈夫だよ自分を見ながら彫ればいい」はみんなからの褒め言葉だったが栄治さんの笑顔を見ていると幸せな気分になって来るとの多数の思いのようでした。

こんどは怪我をすることの無い様に思いっきり天分を発揮して、又作品を見せて頂きたいものです。

高橋ミチさん　ご冥福をお祈りします。

旧姓武田ミチさん。4月6日に帰らぬ人となりました。

心からご冥福をお祈り申し上げます。

昨年の古希の会の折りにも、入院されていると知らされ、参加のみなさんもとても心配されていました。

これまでの同級会などには良く参加され何時もにこにこと笑顔の明るいミチさんでした。同級生地元では、同じ仙道沢出身の阿部アイさんにお願いし有志の香典や花環をお届けしお別れをして参りました。

合掌

「まどい」のみなさんお元気ですか。

熱海でお逢いしてから一週間が過ぎました。18日の朝も同じようにお墓参りをして主人に報告をしてから、三谷発11時30分に乗って豊橋へと行き、12時1分発こだまに乗り換えるために進んで行きましたら孝之助さんが待っていてくれました。電話の声と同じ明るい笑顔です。

豊橋から熱海まで1時間30分ぐらいです。1時間なんてあっと言う間ですね。いろいろな苦労話を孝之助さんに聞いてもらい自分で反省しながら楽しいひとときでした。女は強いと言われますけど淋しさは隠せないです。みなさんも奥さんを大切にしてくださいね。

熱海に13時27分に着き降りていき改札口には清五郎さん勝之助さん宇之助さんがいると孝之助さんが言っていましたが、私には着いたと言う安堵の気持で当たりをみまわす余裕はなかった。

シゲさんは足湯で待っていると聞いていたから足湯に行き、まだ佐藤さんとアイさんが来ないから待っていると言っていました。栄治さんそして私と10名でした。10名集めるのに大変だったと聞きました。

本当はシゲさんと私とであいたいねって時々電話をしながら話していたのに私は一人ではどこへも行けず孝之助さんを誘うことにしたのです。10名集まってくれて本当にありがとうございました。

熱海の夜はすてきでした。宴会も最高でした。4月18日の夜だけの花火を見ることが出来て、とっても楽しかったです。本当にありがとう。

何時もなら三回風呂に入るのに宴会で疲れたらしくそのまま眠ったようです。朝もゆったりで時間に余裕があって10時30分に「志ほみや」を後にしました。

これが最後と思って出ていったのに逢えば別れも辛いけど、又が出ますね。今度は仙台よなんて声が出ました。

浜松でお逢いした方で敏子さんフミさん崇文さんも元気になって仙台で会いましょうね。楽しみにしています。みなさん健康で歩け歩けに参加して足と腰をきたえておきましょうね。

三谷　トモコより

「ゴロ寝で語る会」オプションなしのワイガヤ集団です。
宿「志ほみや旅館」玄関で撮りました。みなさんいい顔をしています。
上段左から、土田栄治・大村シゲ・大友清五郎・荒島トモ子。中段、鈴木宇之助・布川勝之助・大友朝蔵・前段、辻本あい子・佐藤芳雄・高橋孝之助

今年も「三助揃いました」

三助が揃ったのはざっと拾って五回、最近では三年前の「浜名湖」でした。三人揃ったらどうなるか、盛り上がり間違いなし。

さてこの三人をみると、まず埼玉の助さん、宇之助は実業家タイプで芸人。

掛川の助さん勝之助、役人タイプで博士と言う。

東海の助さん考之助は、おもしろく上司にしたいNOワンの高級サラリーマンのタイプ。

それにしてもみんないいおやじだ。70年の頑張りがそうさせたのでしょう。三人とも良い味を醸し出している。

掛川の助は、昔から博学で博士と言われた。何でもよく知っているからだ。それが時々ダジャレに転ぶと爆笑になる。大まじめなダジャレは彼ならではの持ち味。掛川に新居を構え三回目の成人式で車の免許をとったーいつぞやはタクシーで車酔いしていたのに・・

三助

東海の助は、大会社のエリートという感じでいながら部下の面倒見がいくてよく上司と諍うそんな感じ。情けに弱くて涙もろくその割に短気と言う。関東以西の同級会では専幹事よろしく頼みますよ。

最後は埼玉の助。この助のすばらしさは明るさだ、蛍光灯は古いから今やLED、小さくてもかい光を放つ。

「…ッテカ！」

そこからくるのだ。

…。「俺は卒業前に田代へ行ってしまったから、錦糸町で「まどい」に出会わなかったらここにいなかったこと。

だろう」そんなことを言ったこともあった。今は同級会では欠かせない人物だ。あのすばらしい民謡前歌い込みは、同級生よりも、仲居さんやそこを通るお客の足をも止める。

三助の三人三様、同級会の度に今度は三助が揃うかっていつもそんな話題がでてくる。

老舗だから・・・

熱海駅からほんの2・3分の宿「熱海温泉　志ほみや旅館」今度の同級会も、乗り換えなしで駅のそば！。どこかのコマーシャルにあったが、言いたいことは「歩くのがつらい！」が本音。普通温泉旅行といってもなにかしらのオプションがつくのだが、我々はいつもゆったりのんびりがねらい。

何の樹木なのだろう森を連想させる宿の玄関はこれはいいという感じを与えてくれた。案内してくれたのは本館か別館かは解らないが、曲がりくねって二階。細い廊下には赤いジュータンが敷き詰められている。が、あちこちに黒いシミがあった。天井には穴が開いているのかベニヤ板が張り付けられていた。

部屋はこぎれいになっている、床の間に一輪挿しの花が飾られサークラインの蛍光灯がタンブラースイッチのひもをぶら下げている。空調が桟敷の上に据え付けられうなっていた。ベランダがある。障子をあけると後で据え付けたように鉄骨のサッシが茶褐色のくすんだ色に塗られ開くとガラガラと重く隙間さえあった。外は浜も見えた。

「古いナおい！」

「なんせ老舗旅館だからナ尾崎紅葉の筆塚の宿だってよ」

「きんいろよるまた」だナ！

「旅籠（ハタゴ）という感じだよ！」

「老舗だからナ」

「おいおいトイレの電球切れてるよ」

「老舗だからナ」

しかし何となく我々にしっくりとなじむこの宿、

「うん？俺たちも老舗か？・・・」

今時のホテルにはない気持ちが安らぐ。不備はない。スタッフもプロントも文句なしの宿でした。

宿では、特別「老舗」を詩っているわけでもなかったが、古いところも趣の一つとあえてあらわにしている当たりは小憎らしい程さっぱりしている。上履きも草履にしているのも相応であった。

その後「老舗」は古さを見つける度に言われるようになったのだがまるで我々と呼応するようで同級会に付録が付いたような感じであった。：

独身女性三人組

「お宮さん」になるには少し遅すぎましたね。

今度の熱海温泉の同級会では、女性が三人だけの参加でした。どう言うわけか三人とも独身。とはいえ先にご主人を亡くされた身の上だ。

女は強いという、同級生で奥さんを亡くしたという人は居ないがご主人を亡くされた人は七名もいる。強いと言ってこれまでの頑張りは誰もが認める。

それは寄る年波、「乗り換えなしの駅の傍」は女の強さ弱さには関係のないことでしょう。

女性たちにはもう少し頑張ってもらわなければならない。

大村シゲさんの独身歴は長い、病院で患者さんの世話や看護師、先生の手伝いをしながら二人の子供を立派に育ててきた。これこそ女は強しである。長男が大病にかかったときにはさすがシゲさんもあわてた。そこは神様も居ようというもので、今ではしっかり親孝行をしているようだ。同級会にはよく出かける。もう親分肌である。それだけに居ないと寂しい限りの人だ。

辻本あい子さん。やはりご主人を亡くされた。時間が心の傷をいやしてくれるのか日本舞踊を始めた。さらに大正琴までと少しずつライフワークを充実させている　だれも暮らしに苦労は付きもの。だが、あい子さんを襲ったのは股関節の故障。実は浜名湖の同級会の時には痛みに耐えながら、我慢の連続であったとか。ようやく手術する事ができて今回は何とか参加することができた。これこそ「乗り換えなしの駅のそば」を要求。最低エスカレーターで移動すること。階段は絶対だめ、痛みがでるようになってからは大好きな日本舞踊もあきらめ、今もっぱら大正琴。カラオケも年期入ったもので熱海では存分に発揮して存在を大きくしている。やっぱり女は強い！。

独身女性といったら叱られそうなほどまだ日が浅いのは荒島トモ子さん。まだ重いご主人を背負っている。少しずつ重さを主人の元へ送り返しているのだが、またそれが寂しくもあり、

今は「カラオケ」に通っているとか。最近はＰＫという言葉がある「ピンピンしていてコロリと逝く」のだそうだ。誰もが望むことだがそうはさせてくれないのが浮き世。長年ご病気だったご主人の面倒をみてきたトモ子さんだからこそ背中の主人の重みを感じるのでしょう。前回「浜名湖」では泣き崩れながらそれでも少しは背中の重みを返すことができたようだ。カラオケを始め友達もできたと、女の強さを発揮しつつある。今度の熱海同級会もトモ子さんが発信もとだ。

三人の独身女性。やっぱりつよい、「今度は仙台よ！」男連中は次はあるのかなぁとつぶやいているというのに！！。

カンパのご協力
ありがとうございました。

高橋孝之助様
辻本あい子様
お陰様で二百号までは
頑張れそうです

踊らばや

宿のカラオケクラブ。今日は花火客がいるはずなのに貸しきりだ。サービス精神の旺盛な感謝状もの。宴会場ではそのためにせっかくの料理も食う暇がなかったとか。見かねたマスターが竹かごのトレーの三度笠を提供、うん、様になっているよ